



## 認知症サポーターステップアップ講座での活用事例 ～VR認知症ケア体験で理解が深まる～



### 開催概要

岩手県大船渡市で開催された認知症サポーターステップアップ講座において、FACEDUOを活用したVR認知症ケア支援を実施していただきました。VRを通じて認知症の方の視点を体験することで、認知症の方の気持ちや行動の背景を理解しやすくなり、地域での支援やコミュニケーションに役立つ知識を深めることが目的です。講座では、VR体験後にグループワークを行い、体験を共有しながら認知症ケアのポイントを整理しました。

- 参加者：40名（4～5名のグループ編成）
- 実施方法：VRゴーグルを使用した体験と、スクリーン投影による全員での場面共有
- VR機材：各テーブルにVR機器を1台ずつ配置（合計8台）

### プログラムの流れ（90分）

- ① ウォーミングアップ
- ② VR認知症症状体験
- ③ VR認知症ケア「不機嫌になり大声を出した」場面体験
- ④ 個人・グループワーク（工夫を話し合う）
- ⑤ 発表・共有
- ⑥ VRで工夫発見体験（約8分）

### 参加者・市職員からの評価

#### 【参加者・グループワークのコメント】

「話し方によって、人の気持ちは変わるということが、あらためて確認できました。」  
「認知症の方への対応の仕方が具体的で理解できた。」  
「VRは2Dより臨場感があり、その場で対話しているような感覚になりました。」  
「認知症の方の生活習慣を配慮した声掛けが必要と感じます。」  
「良い点をほめることが重要と思います。」  
「認知症になる前の生活を思い出して、好意的に対話することが必要だと感じました。」

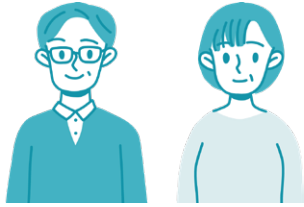
#### 【市職員のコメント】

「VRを活用した講義で、市民のみなさんに関心をもって参加いただきました。」  
「市では誰もが認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる共生のまちを目指しており、VRや映像技術等を通じて学びを深めることができたと考えています。」

## ユーザーイメージ

トレーニングは、「認知症の方の行動を理解したい」「認知症の方への関わり方を学びたい」と考えているすべての方に  
ご利用いただけます。

### 認知症の方を介護中の方



「認知症の方の行動を理解したい」「何に苦しんでいるのか分かってあげたい」「関わり方を学びたい」と考えている方に役立ちます。

### 今後介護をするかもしれない方 (認知症サポーターなど)



「認知症の症状を知りたい」「事前に介護の準備をしておきたい」「地域で暮らす認知症の方への関わり方を知りたい」と考えている方に役立ちます。

### 介護に従事している支援者の方 (医療者、介護士、支援者など)



「認知症の方の行動を理解するための仕組みを知って、誰かに説明したい」「関わり方の工夫の選択肢を持ち現在の仕事に役立てたい」と考えている方に役立ちます。

## 認知症ケア支援 VR の具体的な利用イメージ



### 認知症介護教室

自治体、団体、地域共生薬局などで実施される認知症介護教室での利用



### 介護専門職研修

学会、病院、診療所、介護施設などで実施される介護専門職に対する研修での利用



### 体験会・展示

学会、団体などが開催するイベントでの体験会や展示での利用

## 監修者のコメント



● 国立がん研究センター  
がん対策研究所  
がん医療支援部 部長  
慶應義塾大学医学部  
精神神経科非常勤講師

藤澤大介先生

介護は、本来、優しさから始まっているものです。しかし、そういった優しさがおびやかされる場面があります。その一つは、介護する人に、介護を受ける人の心の中が見えなくなった場面であり、もう一つは、介護する人が疲れ果ててしまった場面です。

認知症という病気は、認知症を持つ人の心の中を周囲の人に見えにくくします。また、長期間の介護は介護者の心身を疲弊させます。このプログラムは、VR を活かして認知症の方の心の中を見えやすくして理解を助け、その理解にもとづいた優しいコミュニケーションを取り戻すことに役立つと期待されます。さらに、介護者自身に向けたストレスケアのコンテンツが介護者の心を優しくほぐすことと期待されます。



● 株式会社ジョリーグッド  
上級医療統括顧問  
精神科専門医

蟹江 絢子先生

認知症の方の増加に伴い、認知症を介護する方も増えています。

現在では、誰もが「認知症介護の当事者」です。認知機能が低下している方と接するためには、介護者が関わり方を工夫する必要があります。関わり方の工夫は、穏やかな状態を維持するために、認知症の方が落ち着かなくなる「きっかけを減らす」とことと、認知症の方の戸惑う行動に対して介護者が、「対応のレパートリーを複数もつ」ことです。関わり方の工夫を学ぶ機会が少しでも増えることを願っています。ぜひ、あなたがそのファシリテーターになってください。

# FACE DUO

認知症ケア支援 VR

販売会社 大塚製薬株式会社

〒108-8242 東京都港区港南 2-16-4 <https://www.otsuka.co.jp/>

開発会社 株式会社ジョリーグッド

〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町 10-13  
WORK EDITION NIHONBASHI 701 <https://jollygood.co.jp>

サービスの  
詳細はこちら  
FACEDUO サイト

